

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270104989		
法人名	ラッキー自動車株式会社		
事業所名	グループホーム 陽光の家		
所在地	長崎市三川町924-5		
自己評価作成日	平成 28 年 7 月 13 日	評価結果市町村受理日	平成28年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=4270104989-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=4270104989-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 28年 8月 24 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は、理念にもうたっているように(ゆっくり・ゆったり・のんびり・自由にありのままに)をモットーに日々の生活を送って行くことを目標に、運営しています。ご家族様との連携も管理者を軸に密に行って要に努力しています。入所者様の高齢化に伴う支援をどうしていけばよいか常に考えて職員一同が同じ方向で努力しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

山あい位置する当ホームは自然に囲まれた住宅地にあり、新・旧職員が一丸となり理念に沿った支援の実践に取り組んでいる。本年度から運営体制が変わった事をきっかけに、管理者を始め全職員が意識の向上に取り組、毎日の朝礼・終礼を実施し情報交換・意見の共有を図る事で更に職員の意見を引き出せるように努め、目に見える形で変化が表れている事が窺えた。また、母体法人と協力しながら福祉車両や介護タクシーを利用し、入居者の外出や病院受診に役立てるよう取り組んでいる。現在入居者全員が女性である事から、身だしなみや口紅を引くなど、美容師の有資格者と共にいくつになっても女性である事を心掛けた支援に取り組んでいる。現在取り組んでいる意識改革と共に更なるサービスの向上を目指す姿勢に、今後も期待が持てるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 陽光の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフは毎回出勤時に事務所に掲示してある理念・スタッフ心得を唱和して勤務に当たっています。	職員は事務所に掲示してある理念及びスタッフ心得を唱和した後に勤務に当たっており、入居者を第一に考え支援するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に施設として加入し入所者様が地域住民の方と交流を図れるように行事事にも参加している。	ホーム及び地域住民も高齢化している中、お互いが気にし合うような関係性を構築している。町内会の行事に参加したり、ホームで開催する敬老会に近所の方を招待したりと良好な関係に取組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政・自治会・民生委員の方々の参加を得て施設の状況、入所者様の現状を理解頂き支援を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開き、その都度関係各所へ案内を出し、施設で議題を決め意見交換を行い入所者様へのサービス向上へと繋げています。	行政・民生委員・家族代表等が参加し、議事内容については議事録の配布や口頭で伝える事で共有を図っている。また、自治会や家族からの疑問や不安に対し、行政等と共に解決策に取組む姿勢がありサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上、疑問点や相談事が発生した時等は行政へ連絡をし支援・協力を得ている。行政主催、協議会主催の勉強会にも出来る限り参加する。	運営上の疑問や相談をし、問題点を明確にし対応するよう協力関係の構築に取り組んでいる。また、家族や運営推進会議のメンバーにも共有する事で、ホームだけでなく自治会との協力関係の構築にも繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的・言葉の拘束には、管理者及びスタッフ全員で意識合って、その都度注意・指導し合う様に徹底しています。	管理者及び職員は身体拘束について理解を深めるように努めており、身体拘束ゼロに取り組んでいる。特に言葉遣いには気を配り、お互いに声掛けをし、その都度注意・指導し、また、毎日の終礼でも共有する事で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の勤務で常に意識を持ち介助の方法を考えながら虐待のないように徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者名ありませんが研修会等で理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を全部説明し納得頂き、改定時などは家族会を開き説明、意見交換を行い納得いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々に問題等あればご家族の方とも相談し、全体にも家族会を開催し意見交換を行い運営に役立っています。	普段から管理者を通じ家族との連絡を密に行う事で、家族の意見を聞くように努めている。家族会が年に1回以上あり、突発的な事案も含め全体の意見を聞く機会を設け、運営に反映させるよう取組んでいる。また、細かい事も家族へ報告する事で家族との信頼関係を築けるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや毎日の朝礼・終礼時に意見交換を行うようにしています。	現在職員の意識の向上を図り、管理者と職員同士が意見を出し合い話し合う事で、職員の意見を反映するよう取組んでいる。また、毎月のミーティングや毎日の朝礼・終礼を通じて職員の意見・意識を共有するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境が人的に余裕のない状態の中でも少しでもやりがいのある状態にできる様に勤務状況の把握・給与体系管理・労働時間管理を行いスタッフのやりがいのある職場を目指し勤めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部研修を積極的に行い、介護力の向上を目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHホーム協議会へ参加し全体研修・地域研修へ出て質の向上を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の説明、入所してからの暫くの間の本人の状態をよく観察してご家族様との連携をとりながら安心して過せるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、ご家族様とも十分に話し合いを行い不安・要望などをお尋ねして常に連携を密に行いご家族様が安心できる様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネジャーは本人・ご家族からのお話を伺い問題点やサービス向上に繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全ての介助を行うのではなく、本人が出来る事は本人にやって頂く。自立支援の基本を忘れることなく見守り、介助を行っていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご家族様へ本人の状況説明や、ご家族からのお話等を伺い共に本人が穏やかに過せるように心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様とも話し合い知人の方などが来訪しやすい環境を整え少しでも本人の癒しになれるように努めています。	入居者・近隣住民の高齢化に伴い、以前に比べると馴染みの人の来訪や場所へ行く事が減少しているが、家族・親類・知人が来訪しやすいよう声掛けを行ったり、福祉車両を使用し外出できる機会を設ける等の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度違いが有りますが、スタッフの対応でお互いが穏やかに過せるように努力しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も出来るだけの相談、支援をさせて頂くように努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や状況を把握し、また、ご家族様とも話し合いの場を持つ、スタッフの意見も聞きいれながら把握に努めます。	入居者の状況・会話・行動からの思い等を個人記録に記載し、職員で話し合い、家族へも報告・相談する事で入居者の思いや意向の把握に努めている。いくつになっても女性である事を心掛け、口紅をひいたり身だしなみにも配慮している。現在入居者の余暇の過ごし方について、本人の思いや意向も反映した方法を検討中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族・職員でお互いに話しをして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活状況・疾病・ご家族との関係などを良く理解して現状の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様との話を元に行うことは取り入れる。スタッフとは介護面での意見交換などを行い情報の共有を行っています。	入居者本人専用の計画となるよう、本人・家族・職員の意見を反映している。計画書には入居者ができる事・挑戦できる事・興味ある事等を話し合い、現状に合った計画書となるよう作成している。計画書について説明をする時は家族へ向けての説明を重点的に行い、家族への理解を深めるよう取組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録簿は第三者が見ても解るように書くようスタッフ全員が統一し情報の共有化に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人とご家族様がいつでも会えるように施設側として心掛け、そのつどの対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に施設として加入し入所者様が地域住民の方と交流を図れるように行事にも参加している。(夏祭り等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員がかかりつけ医があり、訪問診療も受けている。外来受診は職員が付き添い普段の生活状況説明などを行っています。また、日常においても異変があれば連携病院へ電話連絡し適切な指示を受けている。	入居者・家族の希望のかかりつけ医及び協力医と連携の下、家族の協力を得ながら受診・往診を行っている。母体法人の介護タクシーの協力もあり、入居者が適切な医療を受けられるよう取組んでおり、家族の安心にも繋がるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師のスタッフは居ないが、居宅療養管理指導を受け、入居者の状態を知っている看護師に相談をしながら健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院との連携を密にとり施設側の情報提供はもちろんの事、双方の情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の体調の状態に於いては、医療機関やご家族とよく話し合いをし、本人にとって一番良いと思われる支援をやっていきます。	ホームの体制上看取りの実施はないが、医療ケアがメインとなるまでは”できるだけみたい”との想いで支援に取り組んでいる。今後ますます高齢化が進む入居者にとって、終末期のあり方についてホームとしてどこまでできるのか詳細を検討中である。	高齢化に伴い今後の終末期について、家族の希望とホームの体制における実情を十分に話し合い、お互いが納得できる線引きを明確にするよう取組む事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時は、担当職員はすぐに管理者へ連絡を取り関係機関への連絡指示などを受けられるように常に心掛けています。尚、緊急時に備えての訓練も行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練等を行い災害時に安全に行動できるように定期的に確認指導を行っています。	年2回の消防署立会の訓練と共に毎月の消火・通報等の訓練を実施し、全職員が体得できるよう取組んでいる。地域に消防団がなく、地域住民の高齢化に伴い協力体制の構築には難しい面があるが、近隣職員・母体法人と協力し体制を築くよう取組んでいる。	今年の豪雪や熊本地震の影響を十分に振り返り、自然災害における避難訓練の実施を期待します。 また、建物の構造上2階からの避難方法を全職員が体得し、地域住民の方も安心できるよう取組む事をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人としての尊厳と尊重を第一に心掛け、職員員の行動及び言動には、管理者などは特に気を付けています。好ましくない行動や言動があった場合はその都度厳しく注意を行っています。	入居者を第一にと心がけ、言葉遣いや接し方に注意を払った支援に取り組んでいる。特に管理者は好ましくないと思われる言動についてその都度注意し、全職員でも共有を図り入居者の人格を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、危険の内容に職員全員で対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には本人の希望を尊重して支援しています。職員側の都合を優先して行動しているような場合はその都度注意しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の体調等を説く観察し、身だしなみなども気分転換の意味も含めて必ず行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	体調の良い方には進んで参加してもらっていますが、最近では入所様の高齢化がすすみ危険性のない程度で手伝ってもらっています。	入居者が食事に集中できるよう図り、職員は見守りながら状態に応じて一部介助を行い、入居者自身が食事をしているという意識を持って食事ができるよう取り組んでいる。高齢化に伴いのどに詰まる事がないよう小さく切ったり、家族からの差し入れ等にも配慮の協力を仰ぎ予防にも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者に会う食事作りに心がけ、最近では、外注による食事管理も取り入れています。一日の食事の摂取量や水分摂取量は常に管理記録をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、誘導・声かけにて口腔ケアを実施しています。ご家族了解のもとに訪問歯科の受診を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け・誘導により食事前後に行くようにしています。その他、本人様の状態を観察して誘導声掛けに努めています。	入居者の状態に応じたりハパンやパットを使用し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援に取り組んでいる。夜間帯は家族に相談の上、一部センサーを使用する事で安全に排泄ができるよう見守りと介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬調節・食事内容・運動効能などで総合的に排便が自然にできるように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日が入浴を行っています。本人の状態によっては延ばしたり、毎日だったりする事もあります。	週3日の入浴を基本に、拒否をする入居者には本人の意思を尊重しながら声掛けを工夫する等で入浴を促すよう取り組んでいる。職員は入居者との会話に心掛け、入浴の時間を楽しんでもらえるよう努めている。また、浴槽が少し高い事が入居者のリスクとなる事を踏まえ、転倒しないよう配慮しながら支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活の中で、本人が過ごし易いように観察支援しています。季節によっては冷暖房を使い過ごし易い環境を作るように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに添付している服薬内容を職員が把握し、本人の状態観察を常に行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設全体で外出機会を作ったり、ご家族様との外出等も作ってもらい、気分転換を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	其の時々外出計画を作り、個人の希望で外出希望があればできる限り行えるように支援している。ふれあいセンターや公民館公園が近くにあり、自治会主催の行事にも参加し季候のいい時は散歩などもして近所の方との触れ合いも行っている。	高齢化に伴い、散歩等厳しい入居者が増えているが、母体法人の福祉車両を使用する事で可能な限り外出ができるよう支援に取り組んでいる。夏の暑い時期は散歩をする事は厳しいが、庭の手入れを行う方もおり、入居者の希望に沿うように努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から施設側が一時的にお預かりして本人が必要時に渡せるように管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出があれば対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地全体が狭い中でも落ち着いて過ごされるように工夫し、庭には小さいながらも花壇を作り癒しの足しにしています。	入居者の状態に応じて、トイレやエレベーター等の表示に工夫をし混乱がないように配慮し、動線の妨げにならないように整理整頓に取り組んでいる。また、夏の暑い日差しや空調にも配慮し入居者が過ごしやすうように努めている。	常に利用する場所や入居者が頻繁に通る場所は整理されているが、一時的な場所や職員のみが利用する場所等の物の配置を再度振り返り、整理整頓する事を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにおいても各々の場所がありそれなりにご自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々の部屋を本人・ご家族様と使いやすいように配置して過ごされています。	入居時には入居者・家族と相談し、使い慣れた家具や身の回り品を持ち込んでもらっている。高齢化が進んだ現在は転倒リスクに配慮した上で家族と相談し一部の家具を引き取ってもらい、状態に応じた家具の配置を行い居心地良く過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、全員が集団生活の中で自立した生活空間できるように工夫しています。		